

The Mae Fah Luang Foundation under Royal Patronage (MFLF) 面談調査記録

[面談日時]

2019年11月9日(土) 10:00 – 12:00

[場所]

アジアホテルバンコク

[先方]

Thanapong Duangmanee, Ph.D. (Senior Environmental Engineer)
Centre for Social Entrepreneurship,
Mae Fah Luang Foundation under Royal Patronage
1875/1 Rama IV Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand

[当方]

田中直、パウイーティダ・サンウォンパタンサクン、堀尾孝子

[内容]

○設立経緯

タイ王室のスリナガリンドラ王女が、山岳地帯の少数民族の生活向上と環境改善をめざして始めた社会活動として、1972年に設立。当初は“The Thai Hill Crafts Foundation”であったが、1985年に、現在の名称に改名している(Mae Fah Luang は、エスニック言語で“Royal Mother from the Sky”を意味する)。1988年に、中心的な事業である、ドイ・トゥング開発事業が開始された。

○活動と組織

中心的な事業であるドイ・トゥング開発事業は、タイ北部の山岳地帯ドイ・トゥングで、住民の生活向上と環境保全をめざして開始された。もともこの地域は、黄金の三角地帯といわれる麻薬密造地帯であり、住民は貧困に苦しみ、環境は荒廃していた。事業は3段階で実施され、第1段階(1988-1993年)は、住民の健康維持とベーシックニーズの充足、職業訓練が、第2段階(1994-2002年)は、農業生産物の加工などによる収入向上が、第3段階(2003-2017年)には、ビジネス面の強化がめざされた。この事業には、91村から約3,000家族、11,000人が参加して、非常な成功を収め、現在では、コーヒー、マカデミアナッツ、製紙、織物、組織培養などの8つの工場が稼働し、製品は、IKEA、無印良品などでも販売されている。またホテルやカフェも経営しつつ、ツーリズムにも手を広げている。事業は、2001年から自立的な軌道に乗り、2018年には、17.1百万米

ドルの売り上げがあり、うち、5.1 百万米ドルは人件費に、1.54 百万米ドルは、奨学金、教育、ソーシャルビジネスの創出に充てられた。事業は環境と調和した事業として行われており、バイオマス温水発生器、太陽光発電、ソーラーポンプ、ソーラードライヤー、廃油からのバイオディーゼル生産、竹やマカデミアナッツシェルからの炭の生産などを行っている。このドイ・トゥングの事業をモデルする事業が、タイ国内ばかりでなく、ミャンマー、アフガニスタン、インドネシアにも広がっている。

MFLF には現在 1,700 名のスタッフがあり、売り上げは 17 百万米ドル、うち 5%が利益である。他に、王室から 0.7 百万 US ドルほどの助成が出ている。

(感想)

- 王室関係の団体であるだけに、問題があっても出てきにくい面はあるのかもしれないが、それをさしひいても、非常な成功をおさめている団体といえる。住民をエンパワーメントし、自然を回復し、雇用を生み、住民がコントロールできる技術を用いて、環境調和型の産業と自立的経済を創出しており、持続可能な開発のモデルとなるものであろう。

(田中)